



だより



R7.3.21 Vol.43(最終号)

ゆずり葉

河合 醉茗

子供たちよ。
これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は
新しい葉が出来る
入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって――。

子供たちよ
お前たちは何をほしがらないでも
すべてのものがお前たちにゆずられるのです。
太陽のめぐるかぎり
ゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです。
読みきれないほどの書物も
みんなお前たちの手に受け取るのです。
幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを、
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりでのいのちは延びる。
鳥のようにうたい、花のように笑っている間に
気が付いてきます。

そして子供たちよ、
もう一度ゆずり葉の木の下に立って
ゆずり葉を見る時が来るでしょう。

四方山話真穴 ver. 其の四十三(ありがとうございました)

真穴小に赴任して1年が経とうとしています。真穴小だよりでも触れましたが、子供たち、大きな事件や事故に巻き込まれることなく1年を終えることができそうです。本当にありがとうございます。

今年1年間、真穴っ子たちの様子を見てきました。朝の元気な挨拶、行き交う車の運転手さんへの挨拶、その挨拶にクラクションで返してくれる運転手さん、毎日、朝からとても気持ちのいいスタートが切れました。昼休み、外で遊んでいる子供たちが給食車の運転手さんに「いつもありがとうございます！今日も美味しかったです！」と元気に声をかける姿にびっくりしました。と同時にとても微笑ましく思いました。体育面での活躍も素晴らしかったですね。放課後の練習に励んだ水泳部や陸上部の子供たちの活躍は他校の先生からも「真穴！すごいな！」とたくさん声をかけていただきました。(個人的には子供との水泳対決で負けたことが忘れられません。笑)そしてバレーの全国大会への出場。毎日の努力の積み重ねが実を結んだ瞬間でした。とても充実した1年でした。保護者の皆様、地域の皆様の支えがあってこそだと感じています。

私はこの校長室だよりを通して、私から見たそんな子供たちの様子や、私の教育に対する考え、子育てに対する考え、私が考える学校の役割などを発信してきました。発信することで私の思いや願いも私の中で、整理されていきました。まあ、校長室だよりなど、なければならぬ学校は1ミリも困りませんし、日々の教育活動も支障なく行われるでしょう。(笑)しかし、発信することで、誰かが何かを始めるきっかけになるかもしれない、保護者の皆さんの子育ての一助になるかもしれない、これまでとは違う視点を提供できるかもしれない。そんな思いでした。「週1で出す！」という自分ルールは自分の首をしめるものでしかありませんでしたが、それに付き合っこの拙い便りに目を通して頂いた保護者の皆様に再度、感謝申し上げて、今年度の便りの締めとします。1年間本当にありがとうございました。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。1年間ありがとうございました。